

調査結果の概略

1 あなたの文化芸術に対する意識について

Q 1 あなたは、県が策定している文化芸術施策の推進に関する計画「あきた文化振興ビジョン」を知っていますか。

「知らない」が67.0%と最も多い。「知っている」と「知っているが詳しい内容は知らない」を合わせると32.2%で、「知らない」の約半数となっている。

Q 1-2 あなたは、文化芸術をつくり楽しむことが、人の生まれながらの権利であることを知っていますか。

「知らない」が55.9%と最も多い。「知っている」と「知っているが詳しい内容は知らない」を合わせると43.4%となっている。

Q 2 あなたは、日常生活の中で、文化芸術を鑑賞したり、自ら文化芸術活動を行ったりすることについて、どのように思いますか。

「ある程度大切だ」が60.2%と最も多く、次いで「非常に大切だ」、「分からない」の順に続いている。「非常に大切だ」と「ある程度大切だ」を合わせると85.1%となっている。

Q 3 あなたは、文化芸術が果たす役割についてどのように考えますか。

「楽しさや感動が生活に豊かさや潤いを与える」が72.0%と最も多く、次いで「教養を深め、人間性を育む」、「子供の心豊かな成長につながる」の順に続いている。

Q 4 あなたは、どのようなことがあれば、人々が文化芸術にもっと関心を持つようになると思いますか。

「自宅や職場の近くでたくさん催し物が行われるようになる」が52.9%で最も多く、次いで「無料で見られるコンサートや展覧会などが増える」、「今より経済的な余裕ができる」の順に続いている。

Q 4-2 あなたが秋田県に住み続ける上で、文化芸術活動に関してどのようなことが重要だと思いますか。

「子供たちが学校や地域で文化芸術に日常的に触れることができること」が71.2%と最も多く、次いで「経済的状况に関わらず、人々が地域で文化芸術に日常的に触れることができること」、「伝統行事や民俗芸能など地域の伝統文化があること」の順に続いている。

2 秋田県の文化芸術施策の推進について

Q5 あなたは、次の施策のうち、どれを重視すべきと考えますか。

「県民が文化芸術に親しむ機会を増やす」が52.2%と最も多く、次いで「学校における文化芸術活動・体験を増やす」、「多様な人々の文化芸術活動への参加機会づくりと活動の活性化」の順に続いている。

Q6 あなたは、特にどのような分野の施策を進めてほしいと思いますか。

「音楽（クラシック、ポップス、歌謡曲、民謡など）」が54.3%と最も多く、次いで「美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書など）、写真」、「歴史的な建物や遺跡（建造物、景観、文化財）」の順に続いている。

3 文化芸術との関わりについて

Q7 あなたがこの1年間に、県内外の文化施設など（屋外の会場も含む）に出向いて直接鑑賞した文化芸術イベントはありますか。

「音楽（コンサート、吹奏楽、歌謡、民謡など）」が40.3%と最も多く、次いで「映画（映画館で上映されたもの）」、「美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書など）、写真」の順に続いている。「鑑賞していない」は33.3%となっている。

Q7-2 文化芸術の鑑賞をされなかったのはなぜですか。（Q7で「10 鑑賞していない」と答えた方）

「時間的な余裕がない」が50.8%と最も多く、次いで「興味のある催し物が少ない」、「情報量が少ない」の順に続いている。

Q8 あなたはこの1年間に、県内外の文化施設など（屋外の会場も含む）で開催された文化芸術イベントに何回行きましたか。

「0回」が36.7%と最も多く、次いで「2～3回」、「1回」の順に続いている。

Q8-2 そのうち、「県外」で開催された文化芸術イベントには何回行きましたか。（Q8で「1～4」と答えた方）

「0回」が52.6%と最も多く、次いで「1回」、「2～3回」の順に続いている。

Q8-3 そのうち、「あきた芸術劇場ミルハス」で開催された文化芸術イベントには何回行きましたか。（Q8で「1～4」と答えた方）

「0回」が48.5%と最も多く、次いで「1回」、「2～3回」の順に続いている。

Q 8-4 コロナ禍前（令和元年度以前）に比べて、文化芸術イベントに行く機会が増えましたか。（Q 8で「1～4」と答えた方）

「ほとんど変わらない」が36.9%と最も多く、次いで「いづらか増えた」、「減った」の順が続いている。「とても増えた」と「いづらか増えた」を合わせると31.1%となっている。

Q 9 あなたは、この1年間に、県内で文化芸術作品の創作、文化芸術イベントへの出演・参加、文化芸術事業でのボランティア活動などを行いましたか。

「活動していない」が85.1%と最も多い。活動したものでは「地域の祭りなど伝統行事への参加」、「習い事（音楽、舞踊、茶道など）」、「文化芸術イベントなどの開催・運営のための活動」の順となっている。

Q 9-2 あなたが県内で文化芸術活動をするに当たって、不便や不満を感じていることは何ですか。

「活動するための情報が少ない」が52.8%と最も多く、次いで「忙しくて時間を確保できない」、「学ぶための教室や講習が少ない（指導者がいない）」の順が続いている。

Q 9-3 あなたは、「あきた芸術劇場ミルハス」の練習室・創作室・研修室や、秋田駅前の商業施設・フォンテ AKITA 6階の「あきた文化交流発信センター」（ふれあーる AKITA）の活動発表スペースを知っていますか。

あきた芸術劇場ミルハスは、「知らない」が71.3%、「知っている」が27.3%となっている。あきた文化交流発信センター（ふれあーるAKITA）は、「知らない」が81.2%、「知っている」が17.5%となっている。

4 文化芸術活動の活性化と鑑賞機会の充実について

Q 10 あなたがお住まいの地域に、文化芸術団体が気軽に発表し、住民が日常的に文化芸術に触れることのできる場はありますか。

「地域にあることは知っているが、ほとんど利用しない」と「地域にあるかどうか分からない」がほぼ同じ割合で多くなっている。「地域にあり、利用している」は10.7%となっている。

Q 11 あなたがお住まいの地域の文化芸術に親しめる環境を充実させるためには、何が必要だと思いますか。

「子供が文化芸術に親しむ機会を増やす」が49.1%と最も多く、次いで「公演、展覧会、芸術祭などの文化芸術事業を増やす」、「文化芸術の創作や準備、活動ができる施設や情報を増やす」の順が続いている。

Q 1 2 美術館やホール・劇場などの文化施設（私設を含む）を地域の文化芸術活動の拠点（主な活動場所）とするために、あなたは県や市町村が特にどのようなことに力を入れたら良いと思いますか。

「優れた公演や展覧会などの鑑賞機会を増やす」が49.0%と最も多く、次いで「催し物の広報、周知を増やす」、「公演や展覧会を企画運営するために必要な専門知識を持つスタッフを養成する」の順に続いている。

Q 1 3 高齢者や障害のある人など多様な人々が文化芸術活動を行い、楽しめるようになるため、あなたはどのような取組が必要だと思いますか。

「年齢や障害の有無に関わらず、情報を入手しやすい環境をつくる」が56.3%と最も多く、次いで「誰もが同じ機会に活動できるような支援を行う」、「音声ガイドや多目的トイレ、スロープの設置など、施設のバリアフリー化を進める」の順に続いている。

Q 1 4 文化芸術に関する情報を得ることができるようにするためには、あなたはどのような取組が必要だと思いますか。

「新聞（折り込み広告も含む）、テレビ、ラジオなどのマスコミを活用した情報提供」が75.8%と最も多く、次いで「県や市町村の広報紙によるPR」、「インターネットやフェイスブックなどのSNSによる情報発信」の順に続いている。

5 次代を担う後継者や若手アーティストの育成と活動支援について

Q 1 5 あなたは、どうすれば美術館やホール・劇場などの文化施設にもっと出かけやすくなると思いますか。

「開催されるイベントなどの情報が広く丁寧にお知らせされる」が46.7%と最も多く、次いで「住んでいる地域やその近くに文化施設ができる（増える）、交通の便がよくなる」、「入場料が安くなる」の順に続いている。

Q 1 6 あなたは、子供が文化芸術を体験する場合、どのような取組が必要だと思いますか。

「学校における公演や展示などの鑑賞体験を増やす」が54.6%と最も多く、次いで美術館やホール・劇場など地域の文化施設における、子供向けの鑑賞機会や学習機会を増やす」、「学校と地域の文化施設や機関との連携を強化し、校内外で一体化した文化芸術教育を行う」の順に続いている。

Q 1 7 子供の文化芸術体験について、あなたが期待する効果は何ですか。

「楽しさや感動が生活に豊かさや潤いを与える」が60.0%と最も多く、次いで「心豊かな成長につながる」、「教養を身につけ、人間性を育む」の順に続いている。

Q18 あなたは、文化芸術活動をしていく上で、何が不足していると思いますか。

「文化芸術活動に関する情報発信、周知、広報」が57.2%と最も多く、次いで「人材・後継者育成の支援」、「文化芸術活動に対する助成金」の順が続いている。

6 文化芸術の継承と発展、創造について

Q19 あなたは、県特有の地域の伝統行事や民俗芸能の継承が図られていると思いますか。

「どちらかといえば図られていると思う」が46.2%と最も多く、次いで「どちらかといえば図られていないと思う」、「分からない」の順が続いている。「十分に図られていると思う」と「どちらかといえば図られていると思う」を合わせると49.0%となっている。

Q20 あなたは、この5年間（コロナ禍の時期を除く。）に、お住まいの地域の伝統行事や民俗芸能の伝承活動に関わりましたか。（※出演、運営、ボランティアなど、関わり方は問いません。）

「関わっていないが、今後関わってみたいと思う」が43.6%と最も多く、次いで「関わっていないし、今後に関わりたと思わない」、「関わったし、今後も続けたいと思う」の順が続いている。「関わったし、今後も続けたいと思う」と「関わっていないが、今後関わってみたいと思う」を合わせると60.1%となっている。

Q20-2 あなたがそのように考える理由は何ですか。（Q20で、「2 関わったが、今後は続けたいとは思わない」又は「4 関わっていないし、今後に関わりたとは思わない」と答えた方）

「時間的な余裕がない」が55.0%と最も多く、次いで「興味がない（楽しいと思えない）」、「関係者との付き合いが苦手」の順が続いている。

Q21 文化芸術活動に関わっている方にお聞きします。あなたは、地域の伝統行事や民俗芸能の保存・継承に関して、今後県や市町村は特にどのようなことに力を入れたら良いと思いますか。

「子供たちが伝統行事や民俗芸能に参加できるように学校教育で取り組む」が26.2%と最も多く、次いで「地域の伝統行事や民俗芸能の保存・継承活動に対し助成する」、「伝統行事や民俗芸能を保存・継承する団体や人々の交流活動を支援する」の順が続いている。

7 地域の文化芸術資源を生かした交流人口・関係人口の拡大について

Q22 あなたは、文化芸術資源を活用して観光客を増やしたり、それによって地域が活性化したり、県外や海外から注目されたりするようになるためには、どのようなことが重要だと思いますか。

「文化財が良好な状態で美しく保存・管理されている」が38.1%と最も多く、次いで「様々な文化芸術の鑑賞や、茶道、華道、書道、食文化などの生活文化の体験ができる総合的なイベントが開催される」、「歴史的な建物や遺跡などを活用したイベントが開催される」の順が続いている。

8 その他

Q23 県の文化芸術施策の推進に関する事で、ご意見がありましたらお聞かせください。

自由意見の項目別件数

回答は内容からAからMの13項目に分類した。同一の回答者が複数の意見を記入している場合は、主な意見で分類している。

項番	項目	件数
A	情報発信に関する事	23
B	施設に関する事	19
C	イベントに関する事	19
D	継承に関する事	15
E	子どもたちに関する事	14
F	交通に関する事	13
G	活動に関する事	12
H	文化芸術への関心に関する事	9
I	人口・人材に関する事	8
J	地域に関する事	7
K	文化財に関する事	6
L	経済に関する事	3
M	その他	33
	合計	181

主な自由意見

有効回答数970件のうち181件の自由意見があった。一部を抜粋して掲載する。誤字等は校正しているため、掲載文は回答原文とは異なる場合がある。

A 情報発信に関すること

○秋田県は民俗芸能の宝庫である事を国内外にもっとアピールするべきだと思う。国重文17団体の自治体で持ち回りでイベントを行なったらどうか。(男性・70歳～79歳・鹿角)

○他県から30年前に秋田に来ました。秋田はとてもすばらしい文化や芸術、まつりがあることにとってもおどろきました。しかし秋田県はそのすばらしい文化等を他県や外国にアピールするのがあまりじょうずではないように感じます。秋田県の文化等、もっともっとアピールしても良いのではと思います。(女性・50歳～59歳・由利)

○秋田の伝統的な良さを前面に押し出してそれを守り育てている事が分かる様に宣伝する事が重要と思います。(男性・70歳～79歳・北秋田)

○県外の友達がイベント情報を元によく遊びに来ています。秋田の文化芸術を県外から友達へ、友達が他の友達へと、楽しみにしているので、もっともっと県外に情報が届けば良いと思います。(女性・50歳～59歳・平鹿)

○秋田はとっても魅力的な県なのに、宣伝が下手だと思います。もっと県外の方にお金を落としてもらう様に頑張りたい。(女性・40歳～49歳・秋田市)

B 施設に関すること

○ミルハスでのライブなどへ行く事も多くなっていますが県内外からのお客様も多いのもっと多くの県内観光地、伝統芸能、おみやげ等知っていただくようにミルハスでの展示に力を入れてもよいと思う。(女性・60歳～69歳・秋田市)

○秋田市にミルハスが出来た事でいろいろな芸術にすばらしい環境の中で接する機会に触れる事ができた事が大変良かった事と同時にもっとそれに触れる事の(体力的、能力的)難しい市民への掘り起して育成を図って欲しい。(男性・70歳～79歳・秋田市)

○ミルハスは首都圏のホールに負けないとても良いホールだと思います。今後もミュージカルや演劇を秋田にいても楽しめるよう公演機会が増えることを期待しています。(女性・40歳～49歳・仙北)

○秋田にゆかりのある作家や秋田で活動する作家の作品をいつでも気軽に観たり買ったりすることができるギャラリーを増やしてほしい。(男性・20歳～29歳・秋田市)

C イベントに関すること

○文化芸術は観るだけでは無く参加して体験出来るイベントを増やすべきだと思います。
(男性・30歳～39歳・秋田市)

○著名なアーティストを身近に感じれるような機会を多く増やしてほしいです。秋田は今話題のアーティストが来る機会が少ないと思います。(女性・20歳～29歳・秋田市)

○秋田県内の文化芸術が一堂に集めた催しを行い、タイムリーでなかなか時間が無く見に行けない芸能や行事を一施設で見られる機会を設ける。(県北の人が県南の行事、芸能を見に行きたくても遠方過ぎたり、時間が無く足を運べない人の為に中央で開催するなど)
(男性・50歳～59歳・山本)

○美術館の企画展示、もっと魅力的な展示を誘致して欲しい。(女性・50歳～59歳・秋田市)

D 継承に関すること

○人口減少が続く中、地域の伝統行事や民俗芸能を維持していくのは大変な事だと感じています。芸術体験等は感情豊かに、表現力を育ててくれると思うので、子供達にはどんどん接して欲しいです。民俗芸能は長老達との触れ合いが密なので大切ですね。(女性・70歳～79歳・由利)

○どの地域でも民俗芸能の継承に危機感を持っています。少子化や趣味の多様化により、古き物は関心を持ってもらえず…。学校等で一貫した民俗芸能や伝統行事、文化財等を学ぶ機会を作っていかなければ、後継者は生まれてこないと考える。(女性・50歳～59歳・雄勝)

○文化芸術分野は地域が存続していくために必要なことだと思います。大きなお金をかけることなく、民間と連携して稼ぐ仕組みをつくりつつ、届けたい方に届くような丁寧な発信を心掛け、持続していける仕組みづくりとその継続に取り組んでいただきたいです。(男性・40歳～49歳・山本)

○県人口減少の中小さな集落の小さな文化は人知れず無くなって行くことへの危機感ももう少し持っていたきたいと思いました。(男性・50歳～59歳・仙北)

E 子どもたちに関すること

○子育てしていて、小さい事ですが文化祭（中高生）の時の子供の才能を生せる事も出き、それが大人になり芽が出、大きく発揮する事などあると思いますので、長い目で見、大切にすることなど大切かと思えます。（女性・80歳以上・鹿角）

○県立美術館「秋田の行事」は、小・中・高生は全員が鑑賞できる機会をつくるべきだと思います。子どもたちの心の中に美術・芸術に関して豊かさがめばえるはずで、身近なところに「本物」があるのもったいないと思います。「本物」にふれた人は、文化芸術の振興のためにいろいろなアイデアがあふれてくるのではないのでしょうか。（男性・60歳～69歳・秋田市）

○県人口が減少する中で、やはり子供の頃の体験が大切ではないかと思っています。（男性・60歳～69歳・仙北）

○無料で招待された、小学生の時に見た劇団四季が忘れられません。なかなか秋田では拝見できない貴重な体験をさせてもらえてとても嬉しかったです。（女性・20歳～29歳・秋田市）

F 交通に関すること

○交通の便が悪い。各施設が遠く、移動に時間がかかる。（女性・20歳～29歳・秋田市）

○年とともに、出掛けるのがおっくう。車なし、交通の便がどうしてもないため、歩くことが出来ない。（男性・80歳以上・秋田市以外）

○交通の便が悪いので、行きたくても県南に行けない。県内交流が図れば良いと思いません。（女性・60歳～69歳・北秋田）

○文化芸術について練習するにしても発表するにしてもにしても、作品に触れるにしても、交通の便が悪すぎる。観光客が来ても移動が大変だろうし、秋田は本当に移動が不便だなあという印象しか残らないと思う。なのでまた来たいとはなかなかならないと思う。少子高齢化、人口減少がますます進む中で「足」については一番に考慮しなければならない課題だと思う。（女性・40歳～49歳・秋田市）

G 活動に関すること

○県の文化芸術に対しボランティアとして関わりたいと思っても、ボランティアに関する情報が得られず参加できない現状。ボランティアを通し芸術に触れ、そこから人との関わりが増え、活動の充実、拡大につながるというメリットが生じるのでは…と思います。(女性・40歳～49歳・仙北)

○障害児、障害者が気軽に習える文化的習い事がなくて困っている。何かやらせたいけれど、団体も指導者も見つからない。(無回答・40歳～49歳・秋田市)

○どのようにすれば関われるかわからない。新規の人が入りやすい体制がないと思う。(男性・40歳～49歳・秋田市)

H 文化芸術への関心に関すること

○文化芸術の振興について良く理解していなかったので、今後興味を持ち勉強(理解)して行きたいと思います。(女性・70歳～79歳・秋田市)

○田舎にいるというだけで文化芸術に触れる機会が極端に少ないと実感しています。箱モノを作るのも大事ですが、気軽に「行きたい」と思える著名なアーティストを呼んで触れる機会を増やしたり、伝統芸能においては後継者の育成に重点を置くなど、ある程度ターゲットを絞って、それぞれの分野で最大限効果が発揮できる施策を推進することで、広く一般的に文化芸術が親しまれるようになるのではと思います。まずは興味を持ってもらうことが第一だと思います。(女性・30歳～39歳・秋田市)

○秋田の人口減少を防ぐ為にも、若い世代の方々に興味を持って生活を楽しんでいただきたいです。(県の文化芸術に親しみを持てるような施策の推進をお願いしたいです。)(女性・60歳～69歳・秋田市)

I 人口・人材に関すること

○秋田には地域地域に歴史に根ざした祭りや行事があります。大切な文化です。地域ごとに現状を細かく把握し、必要な予算を投入し、携わる人を増やしていかないと祭りはなくなり、地域は衰退してしまうと考えます。逆に言うと、お金をかけて人材を育成し、次世代につなげていくべきと思っています。(女性・50歳～59歳・山本)

○秋田県の経済が発展し、人口が増えなければ県の文化芸術は保存、継承されていきません。(男性・50歳～59歳・仙北)

○とにかく若い人が居ない。継承どころか存続すら危ない。まずは人口を増やす政策の方が先だと思う。(男性・50歳～59歳・秋田市)

J 地域に関すること

○秋田の文化芸術が発展することによって、秋田に関心を持ってくれる人がふえたり、秋田の人口が増えてくれたりしたら、そのサイクルによってより秋田が住みやすい県になると思います。(女性・19歳以下・秋田市)

○秋田市などの中心部に施設やイベントが集中していて、その他の地域に住んでいる者にとっては、参加しづらいのが現状です。もっと地域それぞれに目を向けていただけたら、と思います。(女性・30歳～39歳・仙北)

K 文化財に関すること

○古い建物も大切に維持、補強、改修工事により、安易に解体しないことを望みます。税金の無駄使いを無くして欲しい。(男性・60歳～69歳・秋田市)

○歴史的な建物や遺跡を活用したツアーなどがあれば良いと思う。地域にある文化財を知ってもらふ機会が必要だと考える。興味を持ってもらふべきである。(女性・19歳以下・仙北)

L 経済に関すること

○文化芸術よりも生活優先の人が多いと思います。経済的余裕が文化芸術に興味をもつ人口を増やすのではないかと考えています。(男性・60歳～69歳・秋田市)

M その他

○施設等の箱物の充実も必要だが、それよりも県民が教養を身につけ、文化的な日常生活が送れるようになる事。そのための教育、働き方、男女共同参画、介護、子育て、すべてが繋がっているように思います。(女性・60歳～69歳・秋田市)

○県民の一人として今回の取り組みを応援していきたいと思います。興味や好みはありますが、これを機会に自分からも情報を得るようにし、参加していきたいと思います。(男性・20歳～29歳・仙北)